

阿賀野川

aganogawa E-toko dayori

えとこだより



ここにあるすべてを、
かけがえのない
「宝もん」へ。

「川魚の焼き干し」(阿賀野市京ヶ島) 提供:大橋憲造氏

もくじ

特集1 阿賀野川エコミュージアムを目指す流域 再生フォーラム(第14回)開催のお知らせ	2
トピックス 新潟水保病学習の出張授業	3
特集2 阿賀流域再発見・連続ツアー講座2025	4
〜阿賀野川流域のSDGsをさぐる〜	
水と大地が織りなす豊かさを享受する阿賀野川 下流域の持続可能な今後は?開催レポート	
インフォメーション	8

阿賀野川流域における「未来志向のSDGs^(※1)」を探る

エスディー・ジーズ

今後のFM事業^(※2)を通じて、
次世代に向けた取組を考えるために

新潟水保病は今年度で公式確認^(※3)30年を迎えました。しかし、被害を訴えて平成後期に提起された訴訟の一部は現在も係争中で、新潟水保病問題は今なお続いています。当時、若者や子どもだった人々もすでに高齢世代となっており、今後は新潟水保病の歴史や教訓、経験を次世代へ伝えていくことがこれまで以上に難しくなることが懸念されます。

一方、FM事業ではこれまで座学やパネルツアー、パネル巡回展などを通して阿賀野川流域の歴史や文化に刻まれた「光と影」について理解を深めてきました。さらに、ここ数年は「水と大地の豊かさ」にも着目し、これからの阿賀野川流域における「未来志向のSDGs」とは何かについて探ってきました。

今後は、当時を知る人々が少なくなる中で、次世代に対して、新潟水保病の経験や教訓を、どのように伝えていくのが課題となっています。「阿賀野川えとこだより」では、次世代がこれらを学びながら、「未来志向のSDGs」をどのように探求していくことができるのかについて、さまざまな特集を通じて考えていきます。

※1「Sustainable Development Goals」(=持続可能な開発目標)の略称。

※2「阿賀野川えとこだプロジェクト」のこと。詳細はP.8参照。

※3公式確認とは、公害による健康被害の発生を行政が確認すること。新潟水保病では、昭和40年5月31日に新潟県が新潟大学の報告を受けて確認した。

YouTube 動画 新潟水俣病の歴史 を知り、考える

旗野秀人さんが語る 新潟水俣病の歴史

動画配信日時 2026年3月29日(日)20時～



▲阿賀野市(旧安田町)千唐仁に立つ阿賀のお地藏さんと旗野秀人さん

旗野 秀人 さん

昭和25(1950)年、阿賀野市(旧安田町)生まれ。家業の大工を継ぎながら、昭和40年代後半から新潟水俣病被害者の支援を続ける。ドキュメンタリー映画「阿賀に生きる」製作の仕掛け人で、絵本「阿賀のお地藏さん」出版などをプロデュース。新潟水俣病安田患者の会事務局を務め、冥土のみやげ企画などを主宰。

関係者へのインタビューから歴史を紐解く

新潟水俣病の教訓とは何かをさまざま視点から考えるために、昨年度のフォーラムでは、「新潟水俣病の歴史を二気通貫で学べるオンライン講座を開催しました。今年度からは、新潟水俣病の歴史への理解をさらに深め、その教訓をさまざまな視点から考えるために、これまで新潟水俣病問題に関わってこられた関係者へのインタビュー動画を配信していきます。今年度は、阿賀野市(旧安田町)で昭和40年代後半から被害者への支援を続けてこられた旗野秀人さんへインタビューした動画を、YouTube(「ユーチューブ」)上で配信します。ぜひ、ご視聴ください!

参加方法 参加申込みは不要

当日、下記URLか右の二次元コードからご視聴ください。
<https://www.youtube.com/live/78VE120xY-k>



ライブ配信が終了した後も、上記URLまたは二次元コードから動画をご視聴いただくことができます。

主催 ● 新潟県 後援(予定) ● 新潟市・五泉市・阿賀野市・阿賀町 企画・運営 ● 一般社団法人 あがのがわ環境学舎

新潟水俣病学習 の出張授業

人気
です!

ここ数年、FM事業が提供する「新潟水俣病学習の出張授業」が人気を集めており、阿賀野川流域を始め、県内各地域の小・中学校から授業の依頼が増えています♪
今年度は、さらに新しい授業プログラムも加わりましたので、皆さんにご紹介します!

新潟水俣病の全体像を 2コマの授業で学ぶ!

出張授業の中で最も人気があるのは、新潟水俣病の複雑な全体像を、2コマの授業でコンパクトに学べる授業プログラムです。
1コマ目は新潟水俣病の被害を学ぶプログラムで、症状や裁判、差別・偏見などを扱います。2コマ目は新潟水俣病の発生原因を学ぶプログラムで、工場の中で何が起こっていたのかを、生徒の皆さんとともに解き明かしていきます。

新潟水俣病

トピックス★



工場の中で何が起こっていたのか… 発生原因を学ぶ授業



被害を学ぶ授業 症状、裁判、差別・偏見etc

この2コマの授業で新潟水俣病の全体像を学んだ後、追加の授業を依頼する学校もあります。その中でも、次の2つの授業プログラムが多く実施されています。
1つは被害者の体験を聞くことを目的に、語り部による口演動画を教室内で鑑賞する授業です。もう1つは工場周辺までバスで移動し、各スポットをガイドの案内で巡る現地見学です。

その後の追加授業も さまざまなプログラムを 選択可能♪

現在も操業を続けている 工場周辺の現地見学



被害者の体験談 語り部口演の動画鑑賞

原因企業(※)と連携した 授業プログラム

さらに、以前から原因企業(※)と連携して、現在の工場の排水処理の仕組みを見学する現地プログラムも提供しています。



現在の排水処理を見学 法律の2倍厳しい基準で 24時間・365日排水を処理

そして今年度からは、(株)レゾナック川崎事業所が運用している、環境にやさしい廃プラスチックのケミカルリサイクル事業について学ぶ出張授業プログラムがスタートしました。

「化学のカ」で廃プラを分子レベルに分解して 新しい物質(水素+アンモニア)に変える技術! 廃プラのケミカルリサイクル事業



ご関心をお持ちの学校は 一般社団法人 あがのがわ環境学舎 にお問合せください。

※旧昭和電工(株)、現(株)レゾナック・ホールディングス

阿賀野川流域の
SDGsをさぐる

阿賀流域再発見・連続ツアー講座
「阿賀野川ものがたり」2025

水と大地が織りなす豊かさを
享受する阿賀野川下流域の
持続可能な今後とは？

参加者56名
(オンライン含む)

座学講座

11/2 (日)
ハイブリッド
形式で開催

13:30~16:00

開催レポートをお届け
します!



阿賀野川下流域の水と大地が織りなす
豊かさを考える講座&バスツアーを開催

下流域における風土の形成と
人間との関わりを考える

令和7年度の講座では、阿賀野川下流域における大地の形成について学びました。その後、下流域の特徴的な地形を巡り、その風土に適應してきた人々の営みをたどることで、過去の「光と影」を振り返る講座&バスツアーを開催しました。

11月2日の座学講座は、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催し、56名の方々にご参加いただきました。当日は、新潟国際情報大学の教授で、地形学が専門の澤口晋一さんを講師に迎え、主に阿賀野川下流域における大地の形成について、豊富なスライドを用いて解説していただきました。

▲メイン講師は、新潟国際情報大学国際学部国際文化学科教授の澤口晋一さん。現地バスツアー #2のガイドも担当していただきました。

11/2
参加された皆さんの
「ご意見・ご感想」

●澤口先生のお話がとてもおもしろく、興味深い内容で感激した(阿賀野市・40代)／●澤口先生は専門的な内容をとても分かりやすく話され、楽しかった!(新潟市江南区・60代)／●新潟平野の地形や断層にとっても興味を持つことができた。バリアー(沿岸洲)やラグーン(潟湖)など、もっと知りたくなった(新潟市東区・70代)／●笹神丘陵の河川の屈曲と月岡断層の関係に納得!(阿賀野市・70代)／●身近な地域の景観について、自然環境による影響が関わっていることが分かった。今後地域を巡る時にもこうした知識を持って注意深く見たいと思った(新潟市東区・60代)／●FM事業のイベントに参加する度、新しい発見がある(新潟市北区・80代)／●FM事業は新潟水俣病の問題から目をそらさず、且つ地域の特性や魅力を発信し続けている。これからも応援したい(弥彦村・50代)



▲新潟平野に浜堤や砂丘列が形成されていく様子

砂丘など 潟湖・沼沢 湿原・泥炭地 デルタ・氾濫原 山地・丘陵 扇状地

▼阿賀野川の河口の誕生

出典:「松ヶ崎堀割御普請絵図」(新潟市市史編さん室所蔵)、「新潟市史資料編3」(新潟市)所収



▲築造された松ヶ崎堀割 ▲決壊して本流化した河口



大小さまざまな潟が存在する
享保15(1730)年より前の
新潟平野の地形

砂丘など 山地・丘陵 河川・潟湖

大河と土砂と砂丘列が生み出した
水浸しの大地・新潟平野

太古の新潟平野は長く海底に沈んでいましたが、約3百万年前から、日本列島を取り囲む東と西のプレートから強い圧縮が日本列島に加わります。この東西圧縮によって日本列島が隆起し、急峻になった山地を信濃川と阿賀野川が侵食して大量の土砂を運び続けたことで、新潟平野の原型が形成されました。

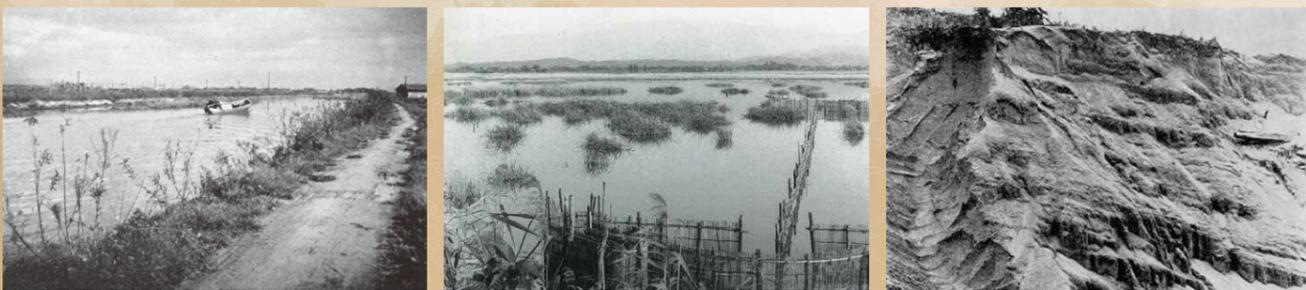
その後、8千年前の縄文期には新潟平野の内陸部まで海が入り込みました。海岸線と並行して沿岸州や浜堤、砂丘が何列も形成され、その内側には巨大な潟が出現しました。さらに、1千年前頃には、阿賀野川を始めとする新潟平野の各河川の河口が、砂丘列に塞がれたことで日本海への排水が困難となり、大きな潟や湿地が広がる水浸しの大地が誕生しました。

河口が開削され、現在の阿賀野川に

こうして、「水沼の蒲原」などと呼ばれる水はけの悪い大地となった新潟平野では、河口を塞がれた各河川は砂丘列に並行して流れて、信濃川や阿賀野川などの大河に流れ込んでいました。阿賀野川も河口を塞がれ、現在の通船川周辺を流れて、信濃川と河口を共有していた時期がありました。

江戸の享保期になると、新発田藩内では紫雲寺潟の開拓工事が始まりました。工事に伴い河川が締め切られたことで、阿賀野川に流れ込む流量が増え、藩内の排水が困難になりました。そこで、新発田藩は享保15(1730)年に、松ヶ崎浜村地内の阿賀野川の屈曲部の砂丘に、余分な水量だけ日本海へ放流する「松ヶ崎堀割」を開削しました。しかし、翌年の雪解け水などの洪水で堀割は決壊して川幅が広がり、現在の阿賀野川の河口が形成されました。

この河口の誕生により、阿賀野川両岸に広がる平野では排水条件が大きく改善しました。一方で、旧河道の流量は減少し、後に現在の通船川となりました。



▲昔の通船川の様子(出典:「亀田郷治水史」(亀田郷水害予防組合)) ▲干拓前の福島潟の様子(出典:「豊栄市史民俗編」(豊栄市)) ▲亀田の砂丘(出典:「亀田郷1978」(新潟県教育委員会))



現地バス ツアー #2

11/9 (日)

参加者37名

さまざまなスポットから福島潟を眺め、地形の形成過程を学ぶ
当日は、水の駅「ビュー福島潟」の屋上や、福島潟周辺の集落から潟を見学して、過去の巨大な福島潟の姿に思いを馳せながら、澤口先生のガイドに耳を傾けました。

風土(地形や気候)への理解を通して、人々の暮らしや営みに思いを馳せる



▲東区のじゅんさい池を見学
砂丘列上に位置するじゅんさい池を見学し、その形成過程を学びました。

▲松浜の池周辺を地元住民が案内
阿賀野川の河口近くにある松浜の池周辺を、地元住民の案内で見学しました。

▲棕堰周辺から新砂丘Iを見学
福島潟放水路の棕堰周辺から、新砂丘I(最も内陸側の砂丘列)を見学しました。

▲ダシの風を防ぐ五泉の屋敷林
局地風であるダシの風と屋敷林が生み出す「気候景観」を見学しました。

形成過程について学びました。

丘陵を観察しました。その後阿賀野川河口近くにある松浜の池を、地元の方の案内で見学しました。最後に、新潟市東区のじゅんさい池へ移動し、地形の形成過程について学びました。

当日の午前中は、阿賀野川の扇状地近くにある屋敷林の集落から見学を始め、世神丘陵を経由して、福島潟周辺の地形を巡りました。

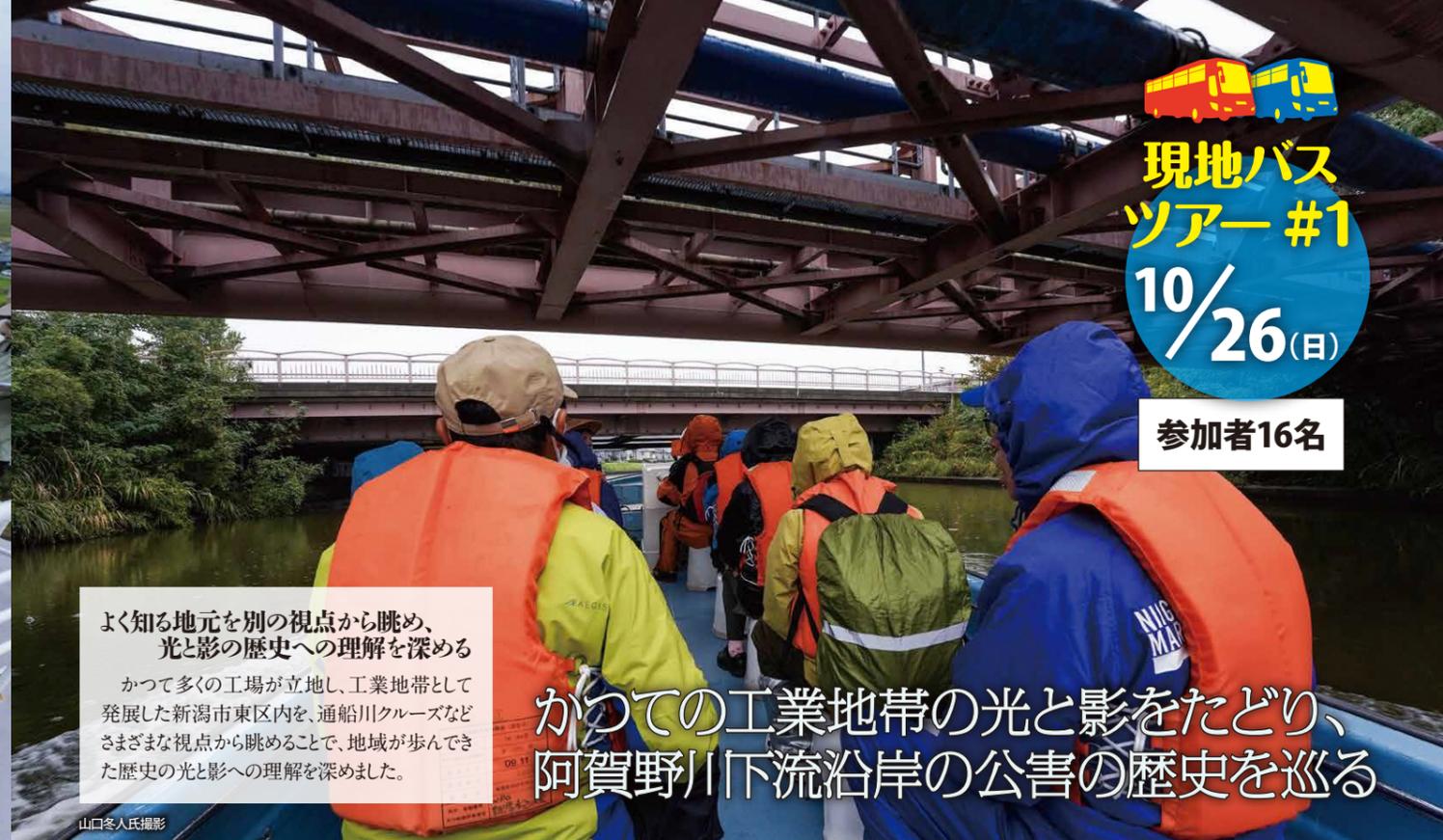
現地バスツアー2日目は、新潟国際情報大学教授の澤口晋二先生によるガイドのもと、阿賀野川下流域の特徴的な地形を巡りました。各地の風土に触れながら、そこに適応してきた人々の暮らしや営みに思いを馳せました。



提供の
実りの秋 里山の恵み弁当とスイーツ

11/9 「ご意見・ご感想」 参加された皆さんの

- 何気なく見ている集落の屋敷林について、その土地の気候や地形との関連が分かり、ためになった(新潟市江南区・60代)／●ビュー福島潟の屋上から、昔の福島潟の広さを教えてもらい驚いた。干拓した先人の苦労が偲ばれ、今の美しい風景に感動(新潟市江南区・70代)／●松浜の池の保全活動をしている松浜地区コミュニティ協議会の方々への熱い思いが聞けて良かった(新潟市北区・70代)／●松浜の池には絶滅危惧種のトンボも棲息しているとのこと。大切に守りたい(新潟市東区・60代)／●じゅんさい池が砂丘地形からできたことがよく分かった。ツアー全体を通して現地を確認できてワクワクした(新潟市江南区・40代)／●じゅんさい池の成り立ちがとても面白かった。多くの方に知ってもらいたい(阿賀町・50代)／●阿賀野川について普段行けない場所の見学や地形などの専門的な話をたくさん聞き、学び直しの一日になった(新潟市江南区・60代)／●澤口先生の解説が分かりやすく、地形学は楽しいと感じた(新潟市北区)／●お弁当は野菜が多く、阿賀町産の原木マイタケたっぷりのご飯が美味しかった。柿とクレミのケイクも嬉しかった(新潟市北区・50代)



現地バス ツアー #1

10/26 (日)

参加者16名

よく知る地元を別の視点から眺め、光と影の歴史への理解を深める
かつて多くの工場が立地し、工業地帯として発展した新潟市東区内を、通船川クルーズなどさまざまな視点から眺めることで、地域が歩んできた歴史の光と影への理解を深めました。

かつての工業地帯の光と影をたどり、阿賀野川下流沿岸の公害の歴史を巡る



▲県立環境と人間のふれあい館
新潟水俣病資料館を訪問
被害者のお話を聴き、館内を見学しました。

▲阿賀野川下流沿岸各地を見学
阿賀野川下流沿岸の、新潟水俣病に関連する各スポットを、ガイドの案内で見学しました。

▲通船川の乗船を体験し、新潟市東区の産業発展の歴史を学習
旅行会社・(株)トラベルマスターズの企画で、一般社団法人新潟水俣病の会による通船川クルーズを体験したほか、東区の産業発展の歴史も学びました。

当初は阿賀野川の本流をクルーズする予定でしたが、津島屋門排水機場の改修工事と重なったため予定を変更し、旧河道である通船川の乗船体験を実施しました。

当日の午前中は、通船川を含めて新潟市東区内を巡り、地域の産業発展の歴史について学びました。午後は、阿賀野川沿岸などを巡り、新潟水俣病被害者の体験に耳を傾けました。

現地バスツアー1日目は、阿賀野川下流域の旧河道や沿岸地域を中心に巡りました。さまざまなスポットを訪れ、地域が歩んできた歴史の光と影に触れ、新潟水俣病の被害について理解を深めました。

阿賀野川の旧河道を体感し、地域の歴史の光と影をたどるツアー



提供の
旬のフルーツ盛り合わせ

10/26 「ご意見・ご感想」 参加された皆さんの

- 通船川クルーズは初体験で、川面から見る風景はまた違った趣きのある風景で良い体験ができた(新潟市東区・60代)／●通船側クルーズでは、低い水面から見える景色が住宅や工場だけでなく、植生や生き物も見え、自然に触れている感じが良かった(阿賀野市・70代)／●現地見学で阿賀野川の河口の変化について深く理解できた(新潟市東区・70代)／●これまで機会がなく、初めて新潟水俣病についてしっかりと話を聞いた(新潟市東区・50代)／●新潟水俣病の経緯を分かりやすく説明してもらい勉強になった。語り部さんの悔しい思いが伝わった。とても勇気があると思う。他人事ではないと覚えておきたい(新潟市北区・50代)／●被害者の方々が、周囲の差別にも苦しんでいることは知っていた。しかし、語り部の方の言葉を聞くと胸に刺さるものがあった。体の痛みを耐えながら、皆のために語り部の活動などされていることに頭が下がる(阿賀野市・70代)／●新潟水俣病の歴史を風化させず、未来に語り継ぐ大切さを思い知った(新潟市東区・60代)／●お弁当は地元野菜がたっぷりで、彩りも美しく美味しかった(新潟市東区・50代)

阿賀野川流域地域

令和7年度パネル巡回展



水と大地のSDGsをさぐる 大地編

水と大地が織りなしてきた持続可能な豊かさとは？



※SDGs:「Sustainable Development Goals」(= 持続可能な開発目標)の略称。

令和7(2025)年度のパネル展では、大河と大地が織りなしてきた、阿賀野川流域地域における持続可能な豊かさを、光と影の歴史とともに紹介する【大地編】です。



展示期間	展示施設	展示時間・備考
3/7(土)～3/24(火)	江南区文化会館内 江南区郷土資料館	10:00～19:00 金曜休館 日曜 10:00～17:00
3/7(土)～3/31(火)	道の駅「阿賀の里」	9:00～16:00
3/26(木)～3/29(日) 臨時休館のため、展示期間が変更になりました。	ラポルテ五泉 ガレリア	9:00～22:00 初日13:00から

■ 主催: 新潟県 ■ 共催: 新潟市・五泉市・阿賀野市・阿賀町 ■ 企画 & お問合せ: 一般社団法人 あがのがわ環境学舎

「阿賀野川え～とこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川え～とこだ! 憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第42号はいかがでしたでしょうか？
令和7年度は、新潟水俣病公式確認60年を迎えた節目の年でしたが、当時は子どもや若者だった方々も現在70～80代になり、あの時代に何が起きたかを知る機会は確実に少なくなりつつあります。今回のフォーラムでは、当時の様子を関係者からヒアリングする動画イベントを開催しますので、ぜひお気軽にご覧ください!



今号表紙の写真「川魚の焼き干し」

阿賀野川流域では、昭和の高度経済成長期まで、川魚を日常的に食べる人々が多かったです。そうした家では、囲炉裏で焼いた川魚の串焼きを、天井から吊るされた藁や竹などでできた「まっとう」と呼ばれる筒に刺して保存食としていました。

阿賀野川え～とこだより 第42号

発行: 新潟県(※環境省補助事業) 発行日: 2026年3月10日
企画編集: 一般社団法人あがのがわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX. 0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川え～とこだ! 流域通信
<https://aganogawa.info/>

// え～とこだよりのバックナンバーも見れます! //

